

差出人: csih@googlegroups.com は 橋本 英樹 <hidekih@wine.plala.or.jp> の代理
送信日時: 2015年7月10日金曜日 7:37
宛先: csih@googlegroups.com
件名: [CSIH] 中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2015年7月10日発行

////////////////////////////////////
/ /
/ 中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2015年7月10日発行 /
/ /
////////////////////////////////////

中部産業遺産研究会にご興味のある方に、このメールを是非転送して下さい。

【中部産業遺産研究会の入会案内はこちら】

<http://csih.sakura.ne.jp/nyuukaiannai.html>

【中部産業遺産研究会のホームページはこちらから】

<http://csih.sakura.ne.jp/index.html>

【CONTENTS】—————

- 【1】 中部産業遺産研究会・関連団体の行事予定
- 【2】 中部産遺研会報 第59号発行のお知らせ【New】
- 【3】 7月12日開催の第135回研究会についてのご案内【再送】
- 【4】 第136回定例研究会・見学会のご案内【再送】
- 【5】 大人の算数・理科シリーズ：モノづくりの原点 第30回／杉本漢三【New】

【1】 中部産業遺産研究会・関連団体の行事予定

- 第135回例会 2015/07/12(日) 13:00～ 産業技術記念館 ホールA
【14:30～ 第1回 さんぎ大学 「産業遺産」とはを開催】
- 第136回例会・見学会 2015/09/27(日) 10:00～ 木曾川文庫、木曾川下流改修工事
関連施設、資料館、周辺施設など予定

●平成27年度パネル展 2015/11/17(火)～29(日) 名古屋都市センター11階

テーマ「東海の絹・文化と産業遺産」

●第137回例会・パネル展講演会 2015/11/22(日) 13:00～ 名古屋都市センター11階

【2】中部産遺研会報 第59号発行のお知らせ【New】

中部産遺研会報 第59号を発行いたしましたのでご案内いたします。

下記のリンクを開いてください。PDFファイルになっています。

<http://csih.sakura.ne.jp/kaihou/K59.pdf>

【3】7月12日開催の第135回研究会についてのご案内【再送】

中部産業遺産研究会第135回研究会を下記の通り開催致します。

日時 2015年7月12日 日曜日 13:00～

会場 トヨタ産業技術記念館 ホールA

当日は、定例研究会を午後1時～2時に開催致します。

それに引き続き、14:30～ 「第1回さんぎ大学 講話会」を開催致します。

(主催：トヨタ産業技術記念館・共催：中部産業遺産研究会)

第1回目となる今回は、

「産業遺産」とは

というテーマで開催致し、当会副会長の天野武弘先生、トヨタ産業技術記念館副館長の成田年秀様の講話、それに続いて、トヨタ産業技術記念館で発掘された煙突基礎の遺構の見学会も行います。

14:30～のさんぎ大学は、一般の方にも公開される産業技術記念館の行事です。

当日の内容の詳細は添付ファイルをご参照下さい。

また、さんぎ大学の内容については、

<http://www.tcmit.org/information/2015/06/post-207.html>

をご参照下さい。

研究会、さんぎ大学ともに参加のお申し込みは不要です。ご興味のある方にもご紹介下さい。

【4】第136回定例研究会・見学会のご案内【再送】

第136回定例研究会・見学会を次の通り開催致します。

【ご注意】

- 1) 参加のお申し込みが必要ですのでご注意ください。
- 2) お申し込みは7月12日までをお願いいたします（申込先は下記をご参照下さい）
- 2) 当日午前6時に名古屋地区に暴風・大雨警報の発令時は中止予定です。

開催日時：2015年9月27日（日曜日）10時集合～15時頃解散 雨天決行

集合場所：近鉄長島駅（南側が出口）10時

参加費：500円（入館料、自家用車提供者へ謝礼）当日受付の時

[内容]

「木曾三川資料館 木曾川文庫見学と河川改修施設・遺構を見る。」

午前：近鉄長島駅より、乗用車乗り合わせにて20分程度の「木曾川文庫」を見学。薩摩藩による宝暦治水工事、デ・レーケ指導の明治改修工事の調査・計画関連資料の説明を受けます。公園内の重要文化財「船頭平閘門」、デ・レーケ像を見学し、木曾三川公園治水タワー広場にて、昼食（各自持参）と休憩。

午後：薩摩藩の宝暦治水殉職者を祭神とする「治水神社」及び「近代治水百年記念碑」を見学・参拝。同時に明治改修で施工されたケレップ水制工が河川内に見られます。最後に輪中の災害歴史・生活・文化を勉強できる「輪中の郷」へ移動し見学。

15時頃：長島駅に戻り解散します。（尚、輪中の郷は入館料310円が必要となります）

参加希望者は住所、氏名、自家用車を出すことに協力可能か同乗の区別を明示し下記へ申し込み。自家用車の準備がありますので見学会参加希望者は7月定例研究会当日（7/12）までに連絡をお願いします。

事務局大橋まで E-mail：ohashi05@ai.wakwak.com

前回の電子メール版ニュースレターの添付ファイルもご参照下さい。

リスクの確率（安全度機能水準の確率論的指標SIL）

我々の日常生活は、毎日をリスクと隣り合わせで過ごしている。原発事故での放射線被曝も許容できる範囲を承知でその電気を使用しているに過ぎない。その許容できるリスクのレベル差は、確率的にISO/IEC規格や原発の安全評価WASH1400(1975年)のPSAランクによって規定されていて、これらを受け入れる覚悟をしていなければならない。「安全・安心」など有り得ないのである。国際規格では、安全度水準[SIL; Safety Integrity Level]として4ランク規定されているが、これを実生活、実作業の3ランクにまとめ、その発生確率を当てはめる。

S I L 1：初期に特定されているリスクで受け入れ難いレベルであり、破棄(不採用)する。

確率 $10^{-1} \sim 10^{-2}$

S I L 2：不安領域：ALARP (As low as Reasonable Practicable)

便宜が期待される場合に限り受け入れられる領域。

確率 $10^{-3} \sim 10^{-4}$

自動車の運転危険率がこの程度であり、便宜を優先させ交通事故死も受け入れる。

S I L 3：僅か残余はあるが容認されるリスク。世界的に法的などでも容認されるレベル。

確率 10^{-5}

原発は、PSA(Probabilistic Safty Assessment)では、3レベルとしている。

レベル1：原子炉損傷(メルトダウン)する確率、沸騰水型マークI. では $4.3 \sim 2.8 \times 10^{-7}$

レベル2：格納容器の機能が喪失する確率、同マークI. では $3.9 \sim 2.1 \times 10^{-7}$

レベル3：放射性物質の放出で周辺公衆への影響を評価する。…現実に評価などはみられない。

—



中部産業遺産研究会のニュースレターは電子メールアドレスをお持ちの会員の皆様にGoogleグループのメーリングリストのシステムを使って配信しています。

配信元：中部産業遺産研究会 会報編集委員・広報幹事 橋本 英樹

E-mail : hidekih@wine.plala.or.jp

Copyright 2002-2014 The Chubu Society For The Industrial Heritage, Allrights reserved.





このメールは Google グループのグループ「中部産業遺産研究会」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには

csih+unsubscribe@googlegroups.com にメールを送信してください。

<http://groups.google.com/group/csih> からこのグループにアクセスしてください。

その他のオプションについては <https://groups.google.com/d/optout> にアクセスしてください。